

富岡町における
車座集会を通じた
リスクコミュニケーション

「帰ってきてきて良かった」
と思ってもらおう支援

折田真紀子 助教

長崎大学 原爆後障害医療研究所国際保健福祉学研究室野



環

境省によると、福島第一原子力発電所の事故により、原発の周辺で避難指示を受けて避難した人は2013年3月の時点で約10万人。福島県全体ではおよそ15万人とされています。

放射線量の高い地域では、土壌の表面の土を取り除くなどする除染が環境省や自治体によって進められてきました。双葉郡の町村の中でも川内村は2011年9月に一部避難指示が解除されましたが、そこからおよそ5年半、2017年4月に富岡町は避難指示が解除されました。

富岡町に帰還した人の多くは放射線への不安を抱えています。リスクの程度が分からず、対策もわかりません。長崎大学は、そんな帰還者の不安を解消するための支援を行っています。

食材による放射線リスクの
違いを理解してもらう

いますが、自分たちで食べる物については測る機会がありません。富岡町役場に設置した検査施設では自分たちで食べる物を自分たちで測ることができません。タッチパネル式なので簡単ですよ。施設にはまた、ゲルマニウム半導体検出器を設置しています。100gという小さな重量でも測ることができ、正確に迅速に測ることができ、食品に限らず、水や土壌も測れますよ」と、折田助教は分かりやすく食品の検査の概要を話します。

次に、2018年2月から測つた実績を説明します。10月末までに639個の富岡町で採れた食品が測定されましたが、7割り8割は放射性セシウムの基準値となる100ベクレルを超えていませんでした。

折田助教は、「10個の食材を測ると、3個くらいは放射性セシウムが検



車座集会で供される手打ちそばと天ぷら

原発事故により故郷から避難せざるを得なかった人は、原発周辺地域だけで約10万人。避難指示の解除により、帰還可能となっても、時間が経つほど戻りづらくなっています。避難から6年後の2017年に避難指示が解除された富岡町における支援を紹介します。

そばを食べてもらいながら、
放射線リスクを解説

2018年12月、富岡町の福島発電浜通り事務所に、周辺に住む男性5人、女性2人が集まってきました。集まったのは、富岡町に戻ってきた町民の皆さんです。各々自己紹介を行うと、地元で農業に取り組んでいた人、役場のOB、専業主婦など。富岡町はもとも人口1万6000人ほ

どでしたが全町民が町外に避難し、2018年12月現在、826人が帰還しています。

長崎大学の折田助教の役割は、放射線のリスクについて客観的なデータを提示し、分かりやすく説明して理解していただくことです。そこで行われている取り組みが「車座集会」です。「私たちはお隣の川内村で活動していました。富岡町では2017年からみなさんが戻れるようになったので、



食品中の放射線量について説明する折田助教と参加住民

4月から役場に長崎大学の拠点を置いて活動しています。本日は、富岡町における現在の放射線の状況についてお話ししたいと思います」と折田助教は呼びかけます。「20分程度お話をし、その後、おそばと川内村と富岡町の野菜を使った天ぷらを食べましょう」。車座集会では、話のときには、一緒に食事をできるように、料理を手作りしています。

折田助教は「富岡町には、放射線量を測定する機械があります。役場ともう1カ所があり、タマネギやニンジンなどの線量を測れるようになっていきます」と紹介します。放射線量を自分たちで測定できるようにしているのは、川内村で長崎大学が取り組んできたことです。

「農作物など、作って売りに出すものは流通する前に放射線量を測定して、菜、キノコなどは、毎年測定してもらおうと安心です。食べ過ぎでおなか痛くなるのは放射線とは関係ありませんよ(笑)」。

専門的な内部被ばくの
影響も解説

折田助教は、専門的な内部被ばくの影響についても説明します。「最後は、内部被ばく線量の計算です。100ベクレルという基準値以上のものを食べたからといっても、直ちに健康に影響を与えるわけではありません。1回や2回で影響が出るものとして基準値を設定していないからです。例えば、200ベクレルの放射線物質を含んだぜんまい1回を食べるとします。その時に身体の中のような放射線の影響を受けるかは計算できません。200ベクレルのぜんまいだと、0.13マイクロシーベルトになり、十分に低い線量と言えることが分かります」。専門的な話でも分かりやすく、車座集会で最も折田助教が心がけていることです。

長崎大学が、福島で地道に続けてきた、放射線リスクを理解してもらう重要な施策「放射線リスクコミュニケーション」をみごとに体現したのが、この「車座集会」なのです。

出されるという状況です。果物か肉類かで、放射性セシウムの検出のされかたが違います。自分で作った野菜、ナス、キュウリ、トマト、白菜、大根からは、放射性セシウムは検出されていません。果物ではいくつ検出されていますが、富岡町の果物も100ベクレルを超える物がたまにあります」と一般的な野菜類は安全である場合がほとんどであることを説明し理解してもらっています。

についても解説します。「肉類で放射性セシウムが検出されやすいのはイノシシです。他に基準値を超えている傾向が見られるのは、山菜とキノコです。山菜の6割くらいは放射性セシウムが検出されます。場所がちょっと違っても放射性セシウム濃度が違います。野生のものを食べる際には、機械で測定してから「食べる、食べない」の判断をしたほうがいいですね」と、食品検査を自分で実施してもらえ